

製品名: V-ATPase H ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19737**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	ATP6V1H ATP6V1H; CGI-11; V-type proton ATPase subunit H; V-ATPase subunit H; Nef-binding
別名	protein 1; NBP1; Protein VMA13 homolog; V-ATPase 50/57 kDa subunits; Vacuolar proton pump subunit H; Vacuolar proton pump subunit SFD
遺伝子 ID	51606.0
SwissProt ID	Q9UI12
免疫原	抗血清はヒト ATP6V1H 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 341-390

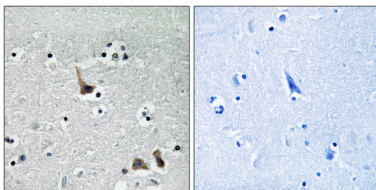
背景

この遺伝子は、細胞内小器官の酸性化を媒介する多サブユニット酵素である液胞 ATPase (V-ATPase) の構成要素をコードしています。V-ATPase 依存性の細胞内小器官の酸性化は、タンパク質の選別、チモーゲンの活性化、受容体を介したエンドサイトーシス、シナプス小胞のプロトン勾配の生成など、複数のプロセスに必要です。コードされているタンパク質は、V-ATPase の V1 ドメインの調節性 H サブユニットで、ATP の触媒には必要ですが、V-ATPase の組み立てには必要ではありません。この遺伝子の発現低下は、2 型糖尿病の発症に関連している可能性があります。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2012 年 5 月]、機能：液胞 ATPase の末梢 V1 複合体のサブユニット。サブユニット H は、酵素の ATPase 活性を活性化し、ATPase 活性をプロトンの流れに結び付けます。液胞 ATPase は真核細胞内の様々な細胞内区画を酸性化する役割を担い、液胞系における輸送プロセスに必要なエネルギーの大部分を供給します (類似性による)。クラスリン被覆小孔を介したエンドサイトーシスに関与し、エンドソームの形成に必要です。類似性：V-ATPase H サブユニットファミリーに属します。サブユニット：V-ATPase は、膜貫通型 V0 プロトンポア複合体 (構成要素：a、c、c'、c''、d) に結合した末梢触媒 V1 複合体 (構成要素 A~H) からなるヘテロ多量体酵素です。HIV-1 Nef タンパク質および AP2M1 と相互作用します。組織特異性：広く発現しています。

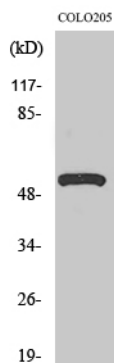
研究分野

酸化リン酸化、リソソーム、コレラ菌感染、ヘリコバクターピロリ感染における上皮細胞シグナル伝達

画像データ



ATP6V1H 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



V-ATPase H ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。